

子ども生活学部の教育課程編成の基本的な考え方（カリキュラム・ポリシー）

子ども生活学部の教育目標を実現し、「豊かな子どもの生活環境の創造、教育、保育に貢献する人材（専門家）」を養成するため、以下の教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）を定める。

〈カリキュラム・ポリシー〉

- ① よりよく生活するための知識と幅広い教養を身につける。
- ② 保育者としての専門的能力を養う。
- ③ 社会ニーズを横断的に理解し、課題を見出す。
- ④ 得意な分野の専門性を深める。
- ⑤ 学びを統合して新たに生活をデザインできる力を育成する

（１）教育課程編成の考え方

全人教育を目標として養成する人材像を視野に入れ、上記５つの方針に沿い、下記のように基礎教育科目と専門教育科目とで構成する。

基礎教育科目の中に、A. 全人教育を目的とする基幹科目、B. 子どもの生活理解に関する教養基礎科目とを設置する。

また、専門教育科目では、子どもの生活と保育・教育について、A～Eの視点から科目を構成し、それらを横断的、総合的に履修することにより、時代や社会のニーズに対応できる臨床的実践力の高い、子どもに関わる様々な職業の専門家を育成することを目的とする。

（２）科目構成の考え方及び特色

1. 基礎教育科目

A 基幹科目

４年間の大学での学びの基盤を築き子ども生活学全体を見通すための科目、人として基本的な事柄を理解し保育者としての教養を身に付けるための科目、生活者として基本的な生活する力を滋養するための科目、学生自身の将来を見通すことを目的とする科目を設置している。

B 教養基礎科目

子どもの生活を、生活と文化、言語と文化、人間と社会、情報と自然科学などの視点から学ぶことで、社会的存在としての子どもの理解し、子どもを取り巻く生活の実態と課題についてより深い考察ができることを目的とする科目を設置している。

2. 専門教育科目

A 保育と教育

子どもの生活と心身の発達に広い知識と深い理解をもち、子どもを生活と学びの主体として育てることのできる人材を育成する科目群

B 家庭・地域・子育て支援と福祉

子どもを取り巻く家庭と地域、社会環境に関心を持ち、親や家庭、地域の子育ての支援に携わる人材を育成する科目群

C 多様な保育財

子どもに関わる得意な分野（音楽や自然、心理等）の専門性を深め、子どもの生活環境を豊かに構想したり実践したりし、子どものための産業や事業に従事する人材を育成する科目群

D A～Cに係る演習・実習科目

子どもを家庭、保育現場、地域、社会における存在として多面的に理解するとともに、子どもの育ちを幅広い視点からとらえ、現代社会で必要とされる指導力を体験的に育成する科目群

E 卒業研究

各自の興味や関心に基づいて研究テーマを設定し、調査、分析、考察、執筆、発表等、研究のプロセスを体験することを通して、生涯にわたって学び続ける専門職としての素地を育成する科目群